２０１９年の新年会を、１月22日(火)、前橋商工会議所会館において開催しました。群馬県、地元選出国会議員、県議会、行政機関、金融機関、友好団体等多数の来賓を含む、総勢１５０人余が出席し、新たな年の訪れを祝いました。

新年会では、はじめに主催者を代表して本会金子正元会長が新年の挨拶を行った。

会長挨拶

日本経済は、戦後最長の景気回復局面といわれているが、私たち中小企業においては、深刻な人手不足、原材料高騰、働き方改革、消費税への対応が喫緊の課題となっている。地方経済を元気にするには中小企業が元気にならなければならない。本会では、引き続き群馬県、国等関係機関と連携し、組合の設立、組合運営の支援を柱に、消費増税や働き方改革への対応、外国人技能実習制度の適正支援などのほか、ものづくり補助金の交付や交付後のフォローに積極的に取り組んでいく。

金子正元 会長

続いて、群馬県副知事・反町敦氏、群馬県議会議長・橋爪洋介氏、日本銀行前橋支店長・岡山和裕氏、全国中小企業団体中央会専務理事・髙橋晴樹氏がそれぞれ祝辞を述べた。

来賓祝辞

○群馬県副知事　反町　敦　氏

群馬県では、「人づくり」、「安全で安心なまちづくり」、「経済活力の向上・社会基盤づくり」の３つを施策の柱に、全庁一丸となって取り組んでいる。こうした甲斐もあり、群馬県は、平成30年上半期の工場立地件数・面積において、初めて全国第１位になることができた。これは、物流や公共交通環

反町　敦
群馬県副知事

橋爪洋介
群馬県議会議長

岡山和裕
日本銀行前橋支店長

髙橋晴樹
全国中央会専務理事

境の整備による群馬県の拠点性が高く評価された結果と考えている。また、高崎市には北関東最大のコンベンション施設が間もなくオープンする。大規模な展示会や学会等の誘致により、大きな経済効果が期待できる。現在、群馬県では、「コンベンションパートナー制度」を設けて、コンベンション産業に参入しようとする事業者に対して、登録を呼びかけている。是非とも、中小企業の皆様にはパートナー登録をしていただき、新たなビジネスチャンスをつかんでほしい。中小企業が元気にならなければ、群馬県経済は元気にならない。群馬県としても、今後とも中小企業の皆様を一生懸命応援していく。

○群馬県議会議長
橋　爪　洋　介　氏

中央会の皆様とは、毎年、「経済情勢懇談会」での意見交換を通じて、国や県に対して何を言うべきか、議会として何をしたら良いのかについて勉強させてもらっている。とにかく、中小企業が元気にならなければ、群馬県は元気にならない。これからも群馬県議会全体として一生懸命、中小企業の皆様のサポートをしていきたい。

○日本銀行前橋支店長
岡　山　和　裕　氏

昨年の群馬県経済を振り返ると、順調な景気回復が見られる一方で、県内企業を巡る情勢では、人手不足、事業承継が目下の課題となっている。日本銀行前橋支店としても、シンクタンク機能を発揮して地域経済の発展に、また、中央銀行サービスを通じて地域金融の円滑化に貢献していきたい。

○全国中小企業団体中央会専務理事
髙　橋　晴　樹　氏

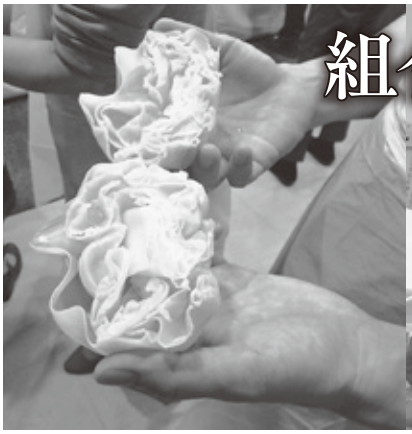
中小企業にとって、人手不足解消のためにも生産性の向上は急務である。その解決の手立てとして全国中央会では、引き続き「ものづくり補助金」を中心に、中小企業の設備投資の支援に取り組んでいく。さらに、事業承継税制の拡充や金融支援措置の充実についても強力に要望を行っていく。大変難しい時代ではあるが、中小企業の皆様には、組合そして中央会に英知を結集していただき、この難局を乗り切ってほしい。

来賓挨拶の後、鏡開きを行い、群馬銀行代表取締役頭取・齋藤一雄氏の乾杯の発声により懇親に入った。

終始和やかな雰囲気で懇親を深め、本会吉田勝彦副会長の中締めにより閉会となった。

新年会と併せて開催した新春講演会の内容については、来月号でご紹介いたします。

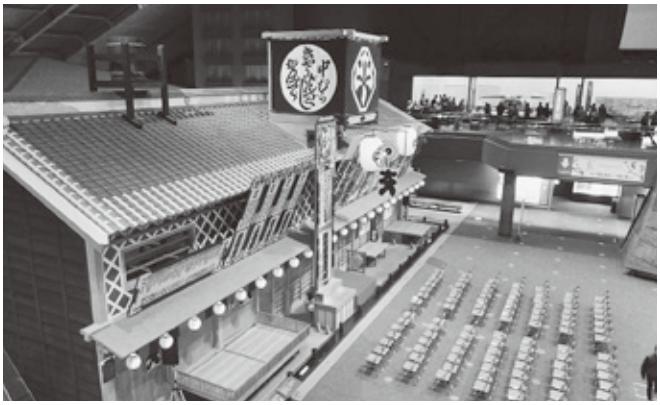
組合女子職員研修会



平成30年11月15日、毎年恒例の組合女子職員研修会を開催した。30回目となる今回は23名が参加し、東京都墨田区の東京都江戸東京博物館、台東区の東京合羽橋商店街振興組合、株式会社岩崎（元祖食品サンプル屋）を訪れた。

○東京都江戸東京博物館

江戸東京の歴史と文化を振り返り、未来の東京を考える博物館として平成5年に開館。江戸から現代までの歴史や生活文化などを紹介。



館内の芝居小屋

○東京合羽橋商店街振興組合

歴史は前身の組織が設立されて以来80年以上。ほとんどの組合員に後継者がおり、青年部がイベントを主催するなど若い力で組合を盛り上げている。

同組合総務委員長・鎌田晴一氏より、当組合の活動等について説明を受けた。

説明を傾聴する参加者

特徴として、インバウンド消費に対応するための接客英会話研修といった組合活動や、各店舗の個性を生かすことで棲み分けができていることなどが挙げられた。

○株式会社岩崎（元祖食品サンプル屋）

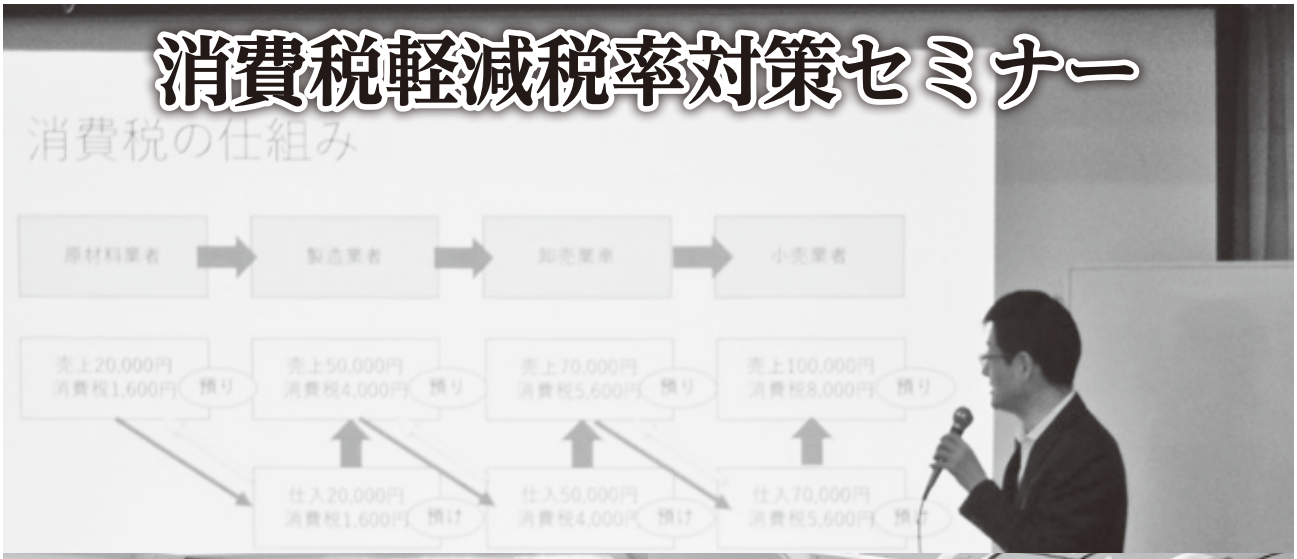
食品サンプルを本格的に事業化して全国に広め、飲食店にサンプルケースを設置するという日本独自のスタイルを普及させたパイオニア的存在。

レタスのサンプル製作を体験

同社が一般客向けに設置した「元祖食品サンプル屋」にて、食品サンプル製作を体験。ものづくりの楽しさを実感した。

その後、日本一の道具街として有名なかっぱ橋道具街通りを自由散策。調理器具やお土産を購入するなどして楽しんだ。

消費税軽減税率対策セミナー



平成30年11月12日に太田市・太田ナウリゾートホテル、19日に前橋市・ホテル1-2-3前橋マーキュリーにおいて、消費税軽減税率対策セミナーを開催した。「消費税軽減税率制度導入等に対する実務対応」をテーマとし、中小企業診断士の三上康一氏を講師に迎えた。

三上氏はまず、軽減税率制度導入の目的は「生活必需品についてほかの商品より低い税率を適用し、低所得層の負担を軽減すること」と述べ、同制度の導入にあたり事業者が対応しなければならないこととして次の2点を挙げた。

○「商品管理」
自社が取り扱う物品等の適用税率を把握しておくこと
○「申告・納税」
売上及び仕入について、軽減税率適用の有無により区分・集計して記帳すること

三上康一 氏

次に、インボイス制度（適格請求書等保存方式）について解説。

○2023年10月1日導入
○同制度導入により免税事業者からの仕入について税額控除ができなくなる（経過措置有）

特に2点目について「免税事業者が取引上不利になることを嫌い課税事業者になるケースの増加が想定される」と今後を展望した。

さらに、軽減税率対策補助金について説明。

○複数税率に対応するためのレジ・受発注システムを導入・改修する場合、経費の一部を補助
○条件に該当すればほぼ確実に補助を受けられ、事業計画書もメーカーが作成するため、事業者が取り組みやすい

「事業の完了期限が迫っているため、早めの対策を心掛けてほしい」と呼びかけた。

最後に「納税額増加に備え、資金確保に努めてほしい。また、軽減税率導入に際して、それに対応したレジやシステムの導入・改修、インボイス制度にいかに対応するかといった検討から始めてもらいたい」とセミナーを締めくくった。

中小企業　新ものづくり・新サービス展

平成30年11月27日～29日の３日間、大阪市・インテックス大阪において、また12月11日～13日の３日間、東京都江東区・東京ビッグサイトにおいて、ものづくり補助事業の成果をＰＲする展示会「中小企業　新ものづくり・新サービス展」が開催された。

４度目の開催となる今回は、大阪会場４２１、東京会場７３１の計１，１５２事業者が出展。群馬県地域事務局の採択企業からは大阪２、東京20の計22事業者が出展した。

《出展企業一覧（順不同）》

【大阪会場】

・(株)糀屋　・(株)木村鋳造所

【東京会場】

・愛和電子(株)　・伊田繊維(株)　・共栄精機(株)
・東邦工業(株)　・(株)富士精工　・群馬精工(株)
・(株)大成　・(株)群馬デスコ　・(株)シミズプレス
・東京精密管(株)　・(株)吉田鉄工所
・(有)中山金属工業　・(株)ＰＲＯＤＩＡ
・(株)アイティーエム　・(株)共立発条製作所
・(株)松井ニット技研　・(株)エム・エス・ケー
・(株)トヨダプロダクツ　・(株)タナカペインティング
・関綜エンジニアリング(株)